NIE実践報告

1．タイトル：新聞を比較しよう

2．学校名

大阪府茨木市立東雲中学校

3．実践者名（代表者名）

佐藤　敏彦

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会　198人

6．単元（本時の学習課題）名

メディアについて考える

7．目標（狙い）

我々が日ごろ接しているニュースもいろいろな角度から分析し、考えることができる。

8．評価の視点

あふれる情報から、何が正しく必要な情報かを見分ける力を養う。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

政治･経済の中のメディアについて

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

メディア･リテラシーについて(2時間)
同じ日の新聞5紙を各10部ずつ取り寄せ、新聞の内容を比較させる。
同じ日の同じニュースなのに、新聞社によって捉え方や意見が違うことを理解させる。また、紙面の構成や写真の位置づけでも、読者にとっては、受け取りが大きく変ってくることにも気づかせる。
2009年11月15日釜山射撃場火災の報道も各新聞社によって、写真、構成、文章も全く違うことがわかった。写真も毎日新聞は、自社の記者の写真、他社は、AP、AFP、共同の写真を使っていた。緊迫した様子がそれぞれ伝わってきた。朝日は、唯一遺体を運び出す写真を採用していた。釜山の地図は、各社載せていたが、射撃場の内部の見取り図を1面に載せていたのは、朝日新聞だけだった。
「邦人8人死亡」(朝日)「日本人8人死亡か」(読売、産経)「日本人5人?死亡」(毎日)と、 まだ情報が錯綜していたことがうかがい知れる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

同じ日の新聞でも、こんなに内容が違うことにびっくりした。これからは、ニュースを見るときに、いろいろな角度から見るように心がけたい。(2009年11月15日釜山射撃場火災)

12．成果と課題

我々が知りえる情報は、あふれている。しかし、その情報から、我々は、何を知り、どう考えるか、という力量が問われている。まずは、世の中に関心をもつこと。次に、それに対して、どう考え、どう行動するかが大切である。新聞の大切さをこれからも生徒たちに伝えていきたい。